

2022年1月12日

パルシステム生産者・消費者協議会
事務局 田中伸宙

2022年度農法研究会・合同ブロック会議報告

- 1, 1月12日(水) 12:30~15:30、zoomを利用して農法研究会・合同ブロック会議を開催しました。参加産地は53産地96名、パルシステム関係者・パルシステム協力会幹事会メンバーを含め総勢200名の参加がありました。
- 2, 今回の農法研究会では「日本の食とパルシステム生産者の目指す食の方向性」と題し、農畜産物流通コンサルタント&農と食のジャーナリストの山本謙治氏から90分間講演をいただきました。まずは、コロナ禍で外食産業や小売業界などの業態への影響や消費者マインドの変化について説明があり、「個食化が進み、健康志向・衛生志向・栄養重視の志向へと進むことは疑いがない」と語られました。また、SDGsは世界基準の価値観となっておりSDGsの上位概念として、「エシカル(倫理的な、道徳的に正しい)」があるとされ、これからはエシカルと絡めて商品の開発や取り組みを進めることの重要性について説明がありました。エシカル消費を支えるには、意識の高い一部の消費者でなく、時々エシカルな商品を手にする層(全体の60~75%)のかかわり方が重要と説明。また、現在の20歳以下の学生たちはSDGsを学んでおり、10年後消費する立場となった際ますますエシカルな商品が求められるだろうと話されました。最後に、「これまで生協や生産者が取り組みを進めてきたオーガニックなどの取り組みをSDGs、エシカルの文脈に沿って再定義し、表現の見直しをすることで、さらに活動を理解してもらえるようになるでしょう」と提案があり、講演が終了となりました。講演内で事例報告として挙がっている産地の中には、生消協の会員産地も複数紹介されており、会員産地の活動の先進性を理解する機会ともなりました。
- 3, 休憩後、合同ブロック会議を開催しました。各団体報告として、「生消協2021年度活動報告、2022年度活動方針案」については大津代表幹事より、「パルシステム連合会2021年度第3四半期までの受注実績等のまとめ」については渋谷専務理事・辻常務執行役員より、「産直事業本部報告」については島田執行役員より、「パル・ミート報告」については網野代表取締役専務より、それぞれ報告がありました。
- 4, その後、各ブロック役員会報告として、東北・北海道ブロックの高橋直之ブロック長、関東・中部ブロックの毛利嘉宏ブロック長、関西・以西ブロックの澤村輝彦ブロック長より、それぞれ2022年度ブロック会議開催の方向性などについて報告されました。
- 5, 最後に、五十川賢治幹事より北海道の積雪状況の報告、青木等幹事・山下一樹幹事より次世代リーダー研修報告などが報告され、閉会となりました。



以上